

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ステラ			
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～	令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～	令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業運営(活動の立案、工夫、取り組み等)を職員が一体的になり取り組んでいる 職員一人一人が能動的に動き、常に連携を図ることでより良い事業運営を常に意識している	活動内容を立案する際、偏りや固定化がないように様々な工夫を取り入れている。児童の特性に合わせた内容、楽しみながら参加でき、且つ効果的に作用する内容を日々検討している。 職員それぞれが持っている専門性、得意分野を活かし、職員間で連携、助言を行っている	職員一人一人が自己研鑽を怠らずに行い、より良い事業運営を目指し、支援に対する高い志を持った運営を目指していく。具体的には、専門的な外部研修に積極的に参加、送り出しを行っていく
2	家庭・学校・関係機関との連携 保護者とは利用時の出来事の共有、学校とは学校生活における気になる点などの共有に力を入れている 家庭・学校・ステラでの各々の場面での児童の様子を共有する事でそれぞれの強みを活かしたサポートができるように連携を図っている	学校迎え時、担任、ヘルパー等の教育関係者から、その日の出来事や気になる事を聴取している。学校側に対する積極的な関わりの中で信頼関係構築に努めている。学校からの申し送り内容等を保護者も一緒に共有する事で、普段は見えない学校の様子がわかるように助言を心掛けている	学校や担任によっては、思うようにコミュニケーションが取れない所もある。そのような環境であっても、工夫をしながら、どのように連携していけるかを模索していく。学校、担任に左右されずとも、連携ができる工夫を常に行っていく
3	所在している地域との関わりを積極的に行っている 児童センター、学童クラブ等と交流を行い、障がいの有無に関わらず児童一人一人が地域の一員として主体的に関われるよう、地域との繋がりを大切にしている	活動内容に「地域交流」を取り入れ、地域の児童センターに積極的に足を運んでいる。児童センターでは、放デイだからと特別に扱ってもらうのではなく、同じ地域の子どもとして、全員が同じルールの中で利用できるように取り組んでいる	所在している地域だけでなく、所属している児童の小学校区の児童センターにも積極的に足を運ぶ必要がある。様々な児童センターで地域の子ども達、地域のルールを経験する事で、更なる社会的向上を目指したサポートを行ってきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニング等の実施	保護者からの質問等に管理者が中心となり、回答や助言を行っている。モニタリング、送迎時の申し送り等、様々な場面で療育に関する話を行うことが多い 児童の成長に伴い、支援の思い、見えている課題等を含め、家族へ伝えたりすること、関わり方へのアドバイス等、情報共有の場を積極的に設けていく事を考える	ペアトレの実施には至っていないが、全保護者向けに情報提供の場として「活動報告会」の開催を検討中。次年度内では実施ができるよう取り組んでいく その他、年齢によって生まれてくる課題、個人の特性による課題等、様々な着眼点の中で家族支援プログラムの運営を検討していく
2	活動スペースの確保、生活空間の構造化等の環境調整	今年度までの事業所は一般住居を改装した仕様となっていた為、子ども達が十分に身体を動かす為のスペースの確保(成長に合わせて体も大きくなっている)や各所に小さな段差等があった。入居の都合上、バリアフリー化に対する困難さがあった	児童の成長に合わせたスペースの確保、活動の幅の拡充等を目的に、次年度より近隣の広い物件へ移転を決定 十分なスペースと少ない段差により、様々なニーズにも対応できるよう環境調整を行っている
3	父母の会の活動、きょうだいや親子の交流の場の設定はあるものの、周知がまだ足りない	毎年恒例となっている「親子バーベキュー会」では、多くの保護者や家族の参加を頂いている。その中で保護者間の交流やコミュニケーションをスタッフが仲介する事で、関わりが持っていると持っていたが、まだまだ認識をしてもらえていない様子	年1回の交流だけでは少ないと感じる。「親子バーベキュー会」以外にも、保護者が認識したり、参加できた内容を、もう1、2回計画していきたい。上述のペアトレの様に、様々な視点を大切に開催を積極的に検討する